



きょうとじし じさつそうだん
京都自死・自殺相談センター

会報第九号 (二〇一一年三月二二日発行)

〒 六〇〇-八三四九

京都市下京区西中筋通花屋町下ル塚町九二

〇七五-三六五-一六〇〇 (平日九時〜一七時)

メール so-dan@kyoto-jsc.jp

ホームページ <http://www.kyoto-jsc.jp>

内閣府 「自殺対策強化月間」に際して

今年には本当に寒い日が続きます。そんななか、目をこらさないと見えない程度ですが、桜の木に蕾つぼみが出てきているのを見つけました。季節の変化と新たな息吹を感じて、少しだけ気持ちが和らぎました。

寒暖の差が激しい季節の変わり目は、生活を送ることだけでも、ほんとうに大変です。特に年度末は、仕事や家庭などの環境が大きく変化する時期でもあります。

もちろん良い変化であることもありますが、そうとばかりも参りません。環境が厳しくなると、それだけ身体にも、気持ちにも、色々な影響がでてきます。こうした時期に、内閣府では三月を自殺対策強化月間と位置付け、社会への積極的な活動を試みています。また、これを受けて、さまざまな団体が具体的な活動を展開しています。相談センターでもこの呼びかけに応じて、八〇時間連続で電話相談を受け付けることになりました。

社会の様々なはたらきかけが、一人でも多くの方へ届けられ、抱えている重荷が軽くなり、気持ちが和らぐことを願ってやみません。自死にまつわる苦悩を抱えておられる方々が本当に必要としていることは何か。いつでも、このことを中心に、私たちのできることを精一杯していきたいと思えます。

皆様におかれましても、どうぞご自愛下さい。

代表 竹本 了悟

八〇時間連続電話相談受付

三月二十八日(月)午後八時〜四月二日(金)午前四時

※期間中の週末も通常どおり電話相談を受け付けています

一年間の活動を振り返って

今年は三月に入っても吐く息の白い日があり、冷え込みが厳しいように感じます。雪の降る光景も珍しくはなく、先日もちらほらと空から降ってくる雪を見つめながら、去年の二月に自殺対策フォーラム・ワークシヨップに参加するために京都に来た夜を思いかえしました。

鷺田清一先生の講演を聞き、東京自殺防止センターの西原由記子さんのもとでロールプレイ研修を受けたその日、宿泊した間法会館から雪の降る京都の町並みを眺めながら、ロールプレイで高まった気持ちを落ち着けていたように思います。

当時から既に大阪自殺防止センターのスタッフだった私は、自らの見識を少しでも深めたいとの思いで研修に参加していましたが、まさかそれ以降、京都でも相談活動に携わることになるとは思っていませんでした。研修の翌週に催された京都での電話相談窓口開設の準備委員会にいたっても「研修の反省会だろう」などと勘違いしたまま参加していたのです。（そんな参加者はおそらく自分だけだったと思います…）

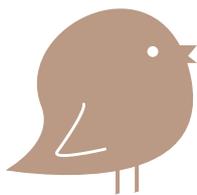
しかし今では、本当に多くの時間を掛けて真剣に話し合い、合宿までして立ち上げたこのセンターの活動に関われることを、とても嬉しく思っています。

「自死・自殺の現状について、少しでも多くの方に興味を持ってもらいたい」「センターの活動について、少しでも多くの方に知ってもらいたい」との思いから、野外でのイベントを開催したことや、街頭募金活動を毎月続けていることも、声を掛け合い、助け合って進めてきたセンターらしい活動だと感じています。

まだまだこれから取り組むべきことも多く、思うこと、考えること、伝えたいことも沢山ありますが、最後に一つ。当センターは開設当初から西本願寺の大きな援助を受けています。スタッフの中にもお坊さんが多いのも事実です。しかしながら全員がお坊さんというわけではありません。死生観は個々様々で、何を信じているのか話すことも含めて自由ですが、電話相談においては、或いはセンター内においても、自分が信じるものを誰かに押し付けることはしていません。

「お互いの考えや思いを尊重し、認め合う」

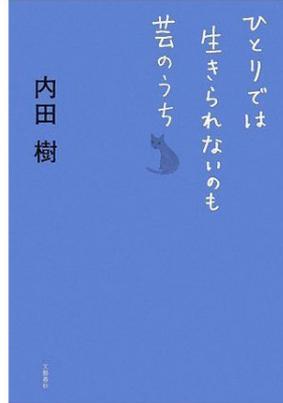
この大切な基本を忘れずに、これからも頼りになる団体を目指していきたいと思っています。



(N・Y)

『ひとりでは生きられないのも芸のうち』

内田樹 著 (文春文庫)



ひとりでは

生きられないのも

芸のうち

内田樹

裏山の藪椿やぶつばきがようやく一

輪だけ花をつけた。今年

冬が厳しかったので開花が

遅れているそう。その枝

先にメジロが二羽、飛んで

きて鳴き交わし、枝を揺ら

している。

さて、今回紹介するこの書籍、変な題名だ。増えていく高齢者に向けて、昨今は「自立して生きていきましょー」「若い人たちに迷惑をかけたらいや」といった、老いていく心構えのような本が溢れかえっている。そんな中でこの題名が目をつけた。「おひとりさまの老後」を書かれた社会学者の上野千鶴さんに対抗しての題名だそう。

あなた自身を愛するように隣人を愛しなさい。あなたが隣人を愛することによって隣人は生きながらえており、隣人があなたを愛してくれるおかげであなたは生きることが出来る。人間は自分が欲するものを他人から与えられることではしか手に入れることがで

きないのである。

(本文「死と愛をめぐる考察」より)

[I cannot live without you]のyouの数が多し程、社会的成熟度が高いと締めくくられてゐる。youを多く必要とするところのは自分自身も多くあなたのこれからの健康と幸福を願うところでもある。

(S・N)

『ルポ 仏教、貧困・自殺に挑む』

磯村健太郎 著 (岩波書店)



磯村健太郎

ルポ

仏教、

貧困・自殺に挑む

当センターの設立当初に取材を受けた内容が書籍化されました。著者の磯村さんには、四月に開催する公開シンポジウムで講演をしていただく予定です。公開シンポジウムの詳細は次号でお知らせします。

報告事項

◆募金活動

二〇二一年二月二十五日(金)一六時～一八時
※京都駅・京都タワー前での街頭募金活動
合計募金額(七、二二二円)
チラシ配布枚数(四九九枚)



◆啓発活動委員会

二〇二一年二月二十四日(木)一九時～二二時
※第二回委員会
参加人数(二〇名)
二〇二一年三月二日(月)一九時～二二時
※第三回委員会
参加人数(二二名)

◆電話相談件数

二年度(二八件)

◆相談活動委員会

二〇二一年二月六日(水)一八時～二二時
※ロールプレイ、グループスーパーヴィジョン
参加人数(九名)
二〇二一年三月二日(水)一八時半～二二時
※グループスーパーヴィジョン
参加人数(七名)

◆グリーンフササポート委員会

二〇二一年二月二八日(月)一九時～二二時
※今後の方針についての意見交換会
参加人数(二〇名)

編集後記

昨年二月の準備委員会設立より一年が過ぎ、当センターもいよいよ今月NPO法人の認可を受けます。ボランティアの人数もまだまだ少ない中、この一年で様々な活動を行ってまいりました。反省点も少なからずありましたが、それも今後の活動にいかしていければと思っています。なお今回をもって、会報「BE」は終了し、来月から会報が生まれ変わります。今度とも、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い致します。

(M)